

道元

2018 年追試

問 3 次のア～ウは，仏教者が説いた修行についての説明である。その正誤の組合せとして正しいものを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

22

ア 空海は，宇宙の万物は大日如来の現れであり，また，人々の生命の根底にも大日如来の力が働いているとし，修行を通じてその力と一致することで即身成仏を遂げることができると説いた。

イ 源信は，地獄や浄土の姿を克明に描写しつつも，実は，地獄も極楽も迷いが見せる幻だとし，厳しい修行を伴う観想念仏によってありありと おもい み観られる仏が唯一の实在であると説いた。

ウ 道元は，ひたすら坐禅することそのもののうちに悟りが実現するとし，そうした坐禅において到達する，身も心もすべての執着から離れた自在な境地を身心脱落と呼んだ。

- ① ア 正 イ 正 ウ 誤
- ② ア 正 イ 誤 ウ 正
- ③ ア 正 イ 誤 ウ 誤
- ④ ア 誤 イ 正 ウ 正
- ⑤ ア 誤 イ 正 ウ 誤
- ⑥ ア 誤 イ 誤 ウ 正

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 3	22	②	3

2015 年本試

問3 次のア～ウは、法然と同様、当時の仏教に新たな展開をもたらした人物たちの思想の説明である。その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。 22

ア 親鸞は、阿弥陀仏の誓願を深く信じて念仏を称えよと説いた。彼の弟子の伝えによれば、これを実践できず、自力で悟ろうとする悪人こそ、救われるべき対象である。この教えは、悪人正機と呼ばれる。

イ 道元は、ただひたすら坐禅すべきことを説いた。彼によれば、身心を尽くして静かに坐^{すわ}りぬく修行こそが、悟りという目的に達するための、最善の手段である。この教えは、修証一等と呼ばれる。

ウ 日蓮は、「南無妙法蓮華経」という七字の題目を唱えよと説いた。彼によれば、『法華経』こそが釈迦による究極の教えであり、唱題は、その功德のすべてにあずかることを可能にする行である。

- | | | | |
|---|-----|-----|-----|
| ① | ア 正 | イ 正 | ウ 正 |
| ② | ア 正 | イ 正 | ウ 誤 |
| ③ | ア 正 | イ 誤 | ウ 正 |
| ④ | ア 正 | イ 誤 | ウ 誤 |
| ⑤ | ア 誤 | イ 正 | ウ 正 |
| ⑥ | ア 誤 | イ 正 | ウ 誤 |
| ⑦ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 正 |
| ⑧ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 誤 |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第3問	問3	22	⑦	3

2013 年追試

問3 次の文章は、鎌倉時代の僧侶が編纂した書物について述べたものである。

・に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

親鸞の弟子の唯円は、師から直接聞いた念仏の教えなどを『』としてまとめた。また、道元の弟子の懐奘は、師が折にふれて説いた日常の修行の心得をまとめた。これは、『』として伝えられている。これらは、教えに疑問を抱く弟子との対話や、修行者が目指すべき道を語る師の言葉を、生き生きと伝える書物である。

- | | | | | |
|---|---|---------|---|---------|
| ① | a | 歎異抄 | b | 興禅護国論 |
| ② | a | 教行信証 | b | 正法眼蔵随聞記 |
| ③ | a | 選択本願念仏集 | b | 開目抄 |
| ④ | a | 歎異抄 | b | 正法眼蔵随聞記 |
| ⑤ | a | 教行信証 | b | 開目抄 |
| ⑥ | a | 選択本願念仏集 | b | 興禅護国論 |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第3問	問3	23	④	2

2011 年追試

問 2 鎌倉時代に活躍した僧の説明として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

15

- ① 法然は、念仏弾圧を受けて越後国へ流罪となり、その地で妻帯し非僧非俗の自覚に立って自らの仏道を実践した。
- ② 日蓮は、自らを『法華経』に登場する菩薩になぞらえ、念仏の力によって万人が救済される仏国土の実現に生涯を尽くした。
- ③ 末法思想を否定した道元は、ひたすら坐禅に打ち込むという修行こそがそのまま悟りであるとする修証一等を唱えた。
- ④ 華嚴宗を再興した明恵は、『摧^{きい}邪^{じや}輪^{りん}』を著し、源信の観想念仏について、菩提心を否定するものだと厳しく批判した。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 2	15	③	3

2010 年追試

問 3 道元の言う悟りについての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

16

- ① 自分の力を頼りに善をなそうとする人は、ひたすら仏の他力をたのむ心が欠けているから、阿弥陀仏による救済の誓願の対象ではない。だが、自力の心を捨てて他力をたのめば、極楽往生ができる。
- ② 他人が是とすることを自分は非とし、自分が是とすることを他人は非とする。だが、自分が必ず聖人であるわけではなく、他人が必ず愚人であるわけでもない。ともに凡夫にすぎない。
- ③ 手に印を結び、口に真言を唱え、心を仏に集中させるという身・口・意の三密の修行によって、仏の力が修行者に加わり、速やかに悟りの境地に至ることができる。
- ④ 仏道を習うということは自己を習うことである。それは自己を忘れることである。自己を忘れることはあらゆる存在に実証されることである。そして、それは自己や他者への執着から解き放たれることである。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 3	16	④	3

2007 年追試

問 1 親鸞と同様に比叡山を下りた思想家に道元がいる。道元の下山の原因となつた疑問と長い思索の末に得られた答えとして、最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

13

① 疑問：天台宗が説くように、末法の世がすでに訪れているならば、どのように悟りが可能となるのか。

答え：秘伝の しんくゝい 身口意の修行を行うことによって如来と一つになれば可能である。

② 疑問：天台宗が説くように、人がすでに悟っているならば、そもそもなぜ修行が必要となるのか。

答え：自分一人でなく、万人を救済する仏国土を建設しなければならないから。

③ 疑問：天台宗が説くように、末法の世がすでに訪れているならば、どのように悟りが可能となるのか。

答え：天理を覆う人欲を修行によって取り除き、天人合一すれば可能である。

④ 疑問：天台宗が説くように、人がすでに悟っているならば、そもそもなぜ修行が必要となるのか。

答え：修行と悟りは一つのものであり、修行のうちにこそ悟りが現れるから。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 1	13	④	3

2005 年追試

問 6 親鸞と同時代に生きた思想家に道元がいる。次の道元の文章を読み、その趣旨を記述したものとして**適当でないもの**を、下の①～④のうちから一つ選べ。

25

仏道をならふといふは、自己をならふ也。自己をならふといふは、自己をわするゝなり。自己をわするゝといふは、万法に証せらるゝなり。万法に証せらるゝといふは、自己の身心および他己の身心をして脱落せしむるなり。

(道元『正法眼蔵』)

- ① 修行に徹するということは、自己中心的なあり方を去り、自己を包むものとしての世界と真に出会うことにほかならない。
- ② 修行に徹するということは、世界を超えた仏の力が自己に入ることであり、自己が仏と一体化していくことを意味する。
- ③ 修行に徹するということは、本来の自己に目覚めることであり、そのような自己において、身心への執着は消滅している。
- ④ 修行に徹するということは、自己が世界に向かうありようではなく、世界の方から自己が根拠づけられることを意味する。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 6	25	②	3

2004 年本試

問 4 親鸞と同時代に自力の修行によって成仏が可能であると主張した思想家の一人に道元がいる。道元についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

24

- ① 戒律を厳しく守って坐禅にはげみ、公案に取り組むことによって悟りを得ることができる」と説き、さらに密教をも取り入れて鎮護国家に努めた。
- ② すべての衆生に仏になる可能性がそなわっていると主張し、大乘の菩薩戒のみを受けて長期間山に籠^{こも}りもって修行すれば、悟りが可能になると説いた。
- ③ 題目には釈迦の因^{いんぎょう}行と果^か徳が十分にそなわっているとし、題目を信じて唱えるならば、それらが譲り与えられて、悟りが可能になると説いた。
- ④ 坐禅の修行は悟りのための手段ではなく、修行を行うことがそのまま悟りであると説き、また洗面や清掃などの日常的な行為も修行とみなした。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 4	24	④	3